

地域再生計画 事後評価シート

都道府県名	長野県	市町村名	長野市	地域再生計画名称	『自然豊かなフルーツと伝説の里』づくり計画
交付期間	平成19年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成25年度		

計画の概要	本市豊野地域は「りんごとぶどうの里」として果樹栽培が盛んに行われ、鬼無里地域は「鬼女紅葉伝説」ゆかりの寺社、奥裾花自然公園等の観光資源に恵まれている。このため、道路ネットワーク整備により、両地域の観光拠点施設や農園・林地へのアクセスを改善し、農林業と観光を結びつけた地域振興を推進するとともに、農山村と都市の交流による地域活性化を図る。また、公共施設や市街地へのアクセスを改善し、地域生活の利便性向上を図る。
-------	--

目標の達成状況	指 標 名		設 定 時 (H17末)	目 標 値 (H24末)	実 績 値 (H24末)	達 成 率
	1	農業の振興と果樹園を活かした観光農園の活性化	りんごの木のオーナー制度の契約本数増加	969本	1,000本	620本
体験農業(りんご収穫)の参加者数増加			3,300人/年	3,500人/年	2,400人/年	68.6%
2	観光資源を活かした地域の活性化	りんごの湯農産物直売所の客数増加	19,000人/年	20,000人/年	16,320人/年	81.6%
		奥裾花自然園(奥裾花キャンプ場含む)の入園者数増加	45,414人/年	50,000人/年	18,370人/年 ※1	36.7%
		(国重要文化財)白髭神社参拝者数増加	6,081人/年	6,500人/年	3,691人/年	56.8%
3	広域農道・市道・林道整備による拠点施設へのアクセス改善	観光名所である丹霞郷への上信越自動車信州中野インターからの移動時間を15分短縮する。		15分短縮	約13分短縮	86.7%
		観光名所である、奥裾花自然園・奥裾花キャンプ場への市街地からの移動時間を約15分短縮する。		15分短縮	約8分短縮	53.3%

※1 減少理由  
 ・料金所を移設した事により、自然園の入場者が減となった。  
 ・条例制定により、開園期間が固定された。そのため水芭蕉の開花や紅葉の時期と重ならないケースがあり減となった。

支援措置を活用する事業	項 目	整備量	事業費		実施状況
			事業費	内交付金	
広域農道	計 画	1,640m	3,150,000千円	1,575,000千円	道路新設 W=10.0(2.5+1.0+6.0+0.5)m L=1,890m
	実 施	1,890m	3,075,500千円	1,542,750千円	
市道	計 画	6,950m	1,260,000千円	630,000千円	豊野穂保線(拡幅改良) W=5.5(7.0)m L=257m 豊野平出線(拡幅改良) W=5.5(7.0)m L=625m 豊野川谷善光寺街道線(拡幅改良) W=3.0(4.0)m L=831m 鬼無里裾花線(舗装打換え) W=5.5(7.0)m L=395.1m 鬼無里日影線(拡幅改良) W=4.0(5.0)m L=193m
	実 施	2,301m	587,285千円	293,642千円	
林道	計 画	3,000m	65,000千円	32,500千円	大川線(道路改良) W=4.0m L=95m 大川線(舗装打換え) W=4.0m L=1,486m
	実 施	1,581m	53,351千円	26,675千円	

その他の事業	項 目	取組み内容	実施状況
	りんごオーナー制度、農業体験(市、地域主体)	消費者が直接生産地へ訪れることにより、豊かな自然や新鮮な農産物とおし、生産者と消費者が密着した農業振興を図る。また、農業体験を通じて農村と都市との交流を促進していく。	りんごの木オーナー組合の事務局を平成18年から豊野町土地改良区に委託し、申込受付をしていたが、平成21年度にオーナー組合が解散し、個々の園主が申込受付等の対応を行なっている。広域農道沿線であるため未開通区間の解消を早期に図ることにより、多くのりんご関連の集客が見込まれる。
	農産物直売	温泉施設である「りんごの湯」において地域で生産された農産物の直売を行う。	平成22年度までの利用は18,000～19,000人/年程度であったが、平成23年度にりんごの湯源泉からの引湯管の詰まりによる湯量の減少に伴い露天風呂が一時休止となってしまった。その影響で、直売所での購入者が少なくなり、同時に組合員も減少し、出荷される作物及び出荷量の減少が続いている。今後は露天風呂再開を機に集客の増加につながる販売に取り組んでいく予定である。
	関連事業 市道戸隠東線の整備	地方道路整備臨時交付金事業を利用して、道路拡幅改良工事の実施。	H23.4月/バイパス部 L=525m完成 現在、残区間1,000mを計画策定中
	ソフト事業 地域活動や観光を促進するための地域イベントを実施していく。(市、地域主体)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つつじ山まつり 毎年5月第2日曜日に開催 参加者500～700人 神楽や獅子舞、豊野太鼓等の披露</li> <li>・ヨイショコ祭り 毎年8月上旬に開催参加者8,000～10,000人 子供のりんごみこし、豊野音頭にあわせた流し踊り 花火大会</li> <li>・奥裾花自然園開山祭と水芭蕉祭り 毎年5月2日に開催 参加者1,000人 安全祈願祭と神楽の奉納</li> <li>・修学旅行によるブナの植林 毎年5月から随時 参加者5校600人 修学旅行生によるブナの苗木の植樹と自然観察会</li> <li>・花菖蒲・ホタル祭り 毎年6月下旬から7月中旬 参加者延べ800人 白髭神社(国重要文化財)での花菖蒲とホタルの観察会</li> <li>・親子仲よしふれあいキャンプ 毎年7月下旬の夏休み 参加親子20組80人 親子キャンプと作物の収穫体験</li> <li>・鬼女紅葉祭り 毎年10月第1日曜日に開催 参加者100人 鬼女紅葉供養祭鬼女紅葉太鼓の奉納</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つつじ山祭りに併せてのウォーキング大会の実施など、つつじ開花の期間に5,000人/年程度の来場者が訪れている。</li> <li>・子供みこし及び流し踊りや同時に開催しているサマーフェスティバル、納涼煙火大会に豊野地域内外から推計10,000人を超える多くの見物客が訪れている。</li> <li>・毎年実施 計画期間中の平均参加者数 1,384人</li> <li>・毎年実施 計画期間中の修学旅行生の平均数 745人</li> <li>・毎年実施 計画期間中の平均参加者数 580人(主催者発表)</li> <li>・ほぼ毎年実施 計画期間中の平均参加者数 56人</li> <li>・毎年実施 計画期間中の平均参加者数 350人(主催者発表)</li> </ul>

総合評価及び今後の方向性	<p>(豊野地域)                  ・広域農道については先線(別再生計画)が建設中であり、本計画の広域農道整備区間の交通開放は、公安委員会や地域から「地区内の生活道路への大型車の流入に伴う住民生活への影響が懸念される」と開放時期の検討要請をうけ、先線完成までの間、国道18号からの一部区間の開放を見送っている。そのため、農業体験などの都市交流や、インターからの時間短縮効果について目標が達成されていない状況ではあるが、整備された広域農道、市道は農家や周辺住民に活用され、耕作放棄地の増加抑制、地域間交通の利便性向上に一定の効果あげている。                  ・りんごの木オーナーや農業従事者の高齢化・後継者不足の影響から観光農園の活性化は停滞しているが、今後、広域農道先線の完成に併せた交通開放を契機に、つつじ山まつり、ヨイショコまつりなどのソフト事業を十分に活用した地域PRを積極的に行い、農業と観光を結ぶ都市間交流による地域振興を図っていく。</p> <p>(鬼無里地域)                  ・目標達成のため、早期の効果が見込める箇所の市道整備を実施してきたが、目標の達成に至らなかった。しかし、ソフト事業においては各種取組みに成果が現れている。                  ・鬼無里地域の観光は自然のその時々状況に左右されやすいが、今後もより災害に強い地域を目指すとともに、様々な取組みをより積極的に内外にPRをしていき観光政策とともに地域の活性化を目指していく。                  ・林道大川線は奥裾花自然園へのアクセス道路であるが、経年劣化による舗装の傷みによる打換えや、スムーズな車両通行ができるよう改良が必要な路線であったが、事業実施により移動時間の短縮がある程度図られ、観光地へのアクセス道路としてイメージアップできた。</p>
--------------	--